

新たな地域交流の拠点としてのこども食堂

三木市内には、「こども食堂」や「地域食堂」として、地域のさまざまな人たちが集まることができる居場所を提供している団体があります。

今回は、こども食堂を毎週土曜日に三木市立中央公民館で開催している『NPOみんなの城』の取り組みを取材しました。

10月2日に開かれたこども食堂では、「ただいまー！」と元気なあいさつが聞こえてきます。夕方4時からこども達が集まり、夕食ができるまでは宿題や自主学習を始めます。

緊急事態宣言中はみんなで集まることができませんでした。宣言が解除されたことにより、にぎやかな週末を過ごすことができるようになりました。



食事は簡単に片付けができるよう使い捨ての容器におかずを盛りつけます。この日は約50食を用意しました。そして、ご飯はこども達が食べる直前に盛りつけます。「せっかく来てくれたのだから温かいご飯を食べてほしい。またこどもの年齢も違うので必要な量を一人ひとりに確認しながらよそうようにしている」と調理担当の藤田さんは話されます。



準備ができると「いただきます」と、みんなで楽しい夕食の時間が始まりました。

『みんなの城』代表の五百蔵さんは、地元の三木地区でもこども食堂を開催したいと考え、市内ですでに活動をしている団体から運営のノウハウを聞いたと話されます。

今年4月に始めたばかりの頃は、参加者は10名ほどでした。それでも活動を続けながら、近隣の小学校やPTAにも呼びかけを続け、現在参加者は多いときで55名ほどになりました。年齢も幅広く、異なる学年や他の学校のこどもとの交流、またそれを見守る保護者同士の新たな交流ができる場所となっています。



また、この日は、授業の一環で活動を知った三木高校の生徒3名も初めて参加。当初は見学目的でしたが、五百蔵さんの「勉強もついでに教えたい」の一言から、活動に参加し、初の学習支援の場としての取り組みも実現しました。

この食堂では、こども達が来たときは「ただいま」「おかえり」、帰るときは「いってきます」「いってらっしゃい」とあいさつを決めています。それは食堂にいる間は、年齢や学校の違うこども達も食事や交流を通じて、大家族の中にいるように感じてほしいという『みんなの城』の思いが込められています。



こども食堂や地域食堂では、食事をする場としてだけでなく、参加者同士も自分に今できることをすることにより支え合い、助け合うことのできる新たな地域交流の拠点としての役割も担っています。

『みんなの城』に関する問合せ先

五百蔵 ☎080-4983-9404

こども食堂や地域食堂は多くの皆さまのご協力があります

こども食堂や地域食堂は、団体や篤志の方も食材などの提供を通じてこの活動に参加しています。生活協同組合コープこうべでは、組合員の皆さまに呼びかけ「フードドライブ」を実施し、寄せられた食品や調味料の提供を行っています。株式会社サラダコスモでは、カット野菜の製造の際に出る梱包不備のため出荷できない商品の提供支援をしています。また三木市社協事業の「みき善意銀行」で篤志の方から寄託いただいたお米をお渡ししています。

皆さまの協力や呼びかけで支援の輪が広がり、多くの方に支えられています。ご協力ありがとうございます。

